

## 日本小児感染症学会若手会員研修会第3回安曇野セミナー

## 安曇野セミナー雑感 コーヒーサーブにもこだわりを

笠井 正志\*

去年は台風のために開催が危ぶまれたため、開催の1週間前から毎日テレビの天気予報と睨めっこでした。今年は見事晴れ！私を除くチューターや参加者の方々の日頃の行いのお蔭です。皆様のご協力を得て、無事に終えることができて、本当に安堵しました。例年通り、懇親会では真夜中まで経口カルバペネム、キノロンの適応などという臨床医学的な話だけではなく、結婚の真実や、今もらっている給料などという生々しい話ができるのも、当セミナーの魅力の1つです(図1)。

無事に終えることができたのは、ひとえに長野県立こども病院の同僚たちのお蔭です。たった総勢60人弱とはいえ、イベントをテンポよく、質高く運営するのは、それなりに労力と思いやりを要します。私自身、本セミナー以外にも年に10回近く開催する「小児の病歴聴取と身体診察の

ワークショップ(小児H&P:通称HAPPY)」のコースディレクターや小児感染症白馬セミナーの事務局をするなど、セミナー主催をさせていただく機会がたくさんあります。セミナーで重要なのは、コンテンツです。しかしコンテンツさえ整っていればそれだけよいセミナーになるかといえ、そうではありません。あえて不便な田舎に来てまで参加するセミナーでの目的は、勉強(コンテンツ)だけではなく、日常からの解放であったり、出会いであったり、癒しであったり、そこにちょっとうれしいサービス、おもてなしの心などの付加価値も重要ではないかと感じています。リラックスして参加できることでさらに学習効果があがり、その結果、満足度が上がるのではないかと、実感しています。今回の安曇野セミナーでの付加価値は、私は、初日の午後と2日目の午前10時に出るコーヒーサーブにあるように思います。



図1 懇親会の様子



図2 こだわりのコーヒーサーブ

\* 長野県立こども病院総合小児科・感染制御室

「コーヒーサーブ」のためには、会場から約 10 km 離れたスターバックスまで買い出しに行き、もち帰らねばなりません。これも受け取りのタイミングとサーブのタイミングがずれてしまっては、できたてほやほやのスタバコーヒーが飲めなくなります。この職人技ともいえる絶妙なタイミングの仕切りは、同僚の総合小児科 南希成医師の「こだわり」であります。またスムーズなサーブのために、これもまた講義終了のタイミングを見計らっ

て、**図 2**のごとく、一斉にスタッフが準備していました。このチームワークとサービス精神は長野こどもの自慢であります。安曇野セミナーの付加価値であると自負しています。

わさびも作れるくらい澄んで、おいしい水で作られたスタバコーヒーは、都会とは違うテイストです。これをまた味わいたい方は、また安曇野で開催するセミナーに申し込んでください。

\* \* \*